

PM資料ガイド

項目	Value Engineering (VE)	Rev.	年月日	作成
	バリューエンジニアリング	0	04/03/31	富田正道
対象	一般			
視点	基本解説			

Value Engineering (VE) バリューエンジニアリング

Value Engineering は、価値工学という訳語もありますが、バリューエンジニアリングとカタカナ書きにするのが一般的です。また、VE という表記も多くみられます。このガイドでは、以下、バリューエンジニアリングとして説明します。なお、同義語として、バリューアナリシス (VA) という用語があります。

バリューエンジニアリングというのは、コストダウン手法のひとつです。多くの「もの」や「サービス」あるいは「マネジメント」などには、同じ機能を果たすための案が複数あるものです。同じ機能を果たすのに、もっとコストの安い案はないかを追求するのがバリューエンジニアリングの目的です。

バリューエンジニアリングの定義は、

“VE基本テキスト”，日本バリュー・エンジニアリング協会，1997

によると、

最低の総コストで、必要な機能を確実に達成するため、組織的に、製品、またはサービスの機能の研究を行う方法

としています。そして、バリューエンジニアリングの究極のねらいは、

この研究を通して、顧客の立場で、製品やサービスの価値に関する問題を研究し、価値を高めることである。

と述べています。

バリューエンジニアリングにおける、「バリュー」について、同書では、

FUNCTION (機能)

VALUE (価値指数) = $\frac{\text{FUNCTION (機能)}}{\text{COST (費用)}}$

COST (費用)

という式を挙げています。ここで、FUNCTION (機能) を数値で表現する必要があることに注意を要します。数値化の方法など、バリューエンジニアリングの方法が、同書に述べられています。

VE基本テキストは、日本バリュー・エンジニアリング協会のサイト、

<http://www2.sjve.org/sjve.org/>

から入手できます。また、同サイトから、バリューエンジニアリングの生い立ちと我国における発展の歴史と共に、バリューエンジニアリングとは何かを紹介する資料として、

“**VE 活動入門 ~ 初めて取り組む企業へのガイド ~**”，日本バリュー・エンジニアリング協会，1997

も入手することができます。

バリューエンジニアリングの生まれた米国では、連邦政府における調達にあたって、バリューエンジニアリングをどのように適用するかを定めた、Federal Acquisition Regulation があります。

“**Federal Acquisition Regulation Part 48 - Value Engineering**”

この資料は、

<http://www.arnet.gov/far/>

から、入手できます。契約の種別ごとに、バリューエンジニアリングの適用方式を細かく規定しています。